

第44回高松矯正管区教誨師研修会

- 1 実施年月日 令和元年7月2日(火)～3日(水)
- 2 会 場 高松市 サンポートホール高松
- 3 参加者 教誨師 40名 矯正施設関係者 31名 その他 14名
計 85名

- 4 主 題 「安らぎの心を求めて」
副 題 「ともに歩む」

- 5 講 演
香川大学法学部教授 平野美紀氏
「多様な人たちを受容できる社会を目指して」



- 6 実践発表会
徳島刑務所教誨師 千葉真仁
「教誨を通して学んだこと」
高知刑務所教誨師 福江 等
「教誨活動を通じて」
丸亀少女の家教誨師 漆間法隆
「私の教誨活動」

- 7 パネルディスカッション
「それぞれの活動を通して見えてきたもの」

パネリスト

- 松山 滋氏 (子ども食堂主催者)
- 亀井 匡氏 (香川少年友の会理事)
- 大川裕子氏 (高松市社会福祉協議会地域福祉課長補佐)
- 久保博巳 (教誨師)
- 上野忠昭 (教誨師)

コーディネーター

- 三船晃裕氏 (高松刑務所分類教育部長)

- 8 研修成果

大会テーマである「安らぎの心を求めてーともに歩むー」に基づき、高松矯正管区教誨師連盟に所属する教誨師が一堂に会し、宗教教誨に関する研究協議の促進を図り、更に相互の親睦を図ることを目的として研修を実施した。



研究発表

徳島県教誨師会、高知県教誨師会及び香川県教誨師会のそれぞれから推薦

した教誨師（発表者）がこれまで行ってきた教誨の実施方法、教誨実施上の悩や不安などを発表することで、経験豊富な教誨師は新たな取組方法に気付くことができ、比較的経験が浅い教誨師は今後の自身の教誨の実施に向けての具体的なアドバイスを受けることができた。



基調講演

講師として、香川大学法学部教授平野美紀氏を迎え、「多様な人たちを受容できる社会を目指して」と題し、これまでの御自身の経験や研究をもとに、①日本人の中に存在する思い込みや同調圧力について、②再犯防止に向けた政策について、③多機関多職種連携について等、海外での例などを参考にし、「今後の刑務所処遇の在り方」や「再犯防止や社会復帰支援のための多職種連携の必要性」について御講演いただいた。

パネルディスカッション

「それぞれの活動を通じて見えてきたもの」と題して、子ども食堂主催者、香川少年友の会理事、高松市社会福祉協議会課長補佐、高松刑務所教誨師及び高松刑務所教科指導講師の5人のパネリストが、それぞれの活動とそこから感じたことを発表し、それに対する質疑応答が行われた。まさに、前日の基調講演の内容を予想したかのように、福祉・矯正・教育・宗教の多職種連携を意識した内容であった。

また、実践発表は、教誨師になって数年の教誨師3名が自らの教誨実践を発表したが、いずれもこれまでの教誨実践をとおしての経験や工夫している点などをテーマに基づいて発表され、経験豊かな教誨師にとっても、自己の宗教教誨を見つめ直すよい機会となった。